

第 12 回 学会報告記（第 43 回日本血管外科学会学術総会）

第 43 回日本血管外科学会学術総会が、2015 年 6 月 3 日から 5 日の 3 日間の日程で、横浜で開催されました。テーマは“血管外科と血管外科医の未来”でした。

1 学会会場

会場は桜木町駅から歩いて 10 分のパシフィコ横浜でした。新大阪駅から新横浜駅まで新幹線で移動し、地下鉄に乗り換えて桜木町駅に到着しました。所要時間片道 3 時間半程度でした。

会場は“みなとみらい地区”にあり、横浜の古い町並みと現代的な町並みが融合された、情緒ある未来都市といった雰囲気でした。



2 発表その他

- ・ 飯田修先生（ランチョンセミナー）

【鼠径靱帯以下動脈領域に対する血管内治療の現状と今後】

- ・ 岡本慎先生（一般口演）

【血管内治療後の WIFI 分類による臨床成績の検討】

- ・ 南都清範先生（一般口演）

【大腿膝窩動脈領域に対する薬剤溶出性ステント（Zilver PTX）の長期成績及び再狭窄
因子の検討】

- ・ 奥野翔太（一般口演）

【重症虚血肢患者における安静心拍数が生命予後に与える影響】

我らが関西労災病院からは、上記ランチョンセミナー1 演題，一般口演 3 演題の計 4 つの演題を
発表致しました。

3 まとめ

1990 年に手作りの大動脈ステントグラフトが使用されてから 20 年余りの間にステントグラフト技術
は目覚ましい進歩を遂げ、腹部大動脈ステントグラフト症例数は、厚生労働省の認可後 8 年で

open surgery の手術数を上回るようになっていきます。学術総会でもステントグラフトの長期遠隔成績やステントグラフトと open surgery のハイブリッド治療などの発表が数多くありました。当院でも腹部大動脈ステントグラフトの手術件数は増加しており、今後も積極的に学会参加、発表を行い、最先端の情報を吸収する必要があると感じました。また、末梢動脈疾患（PAD）に関しては、遠位バイパス手術の治療適応、長期成績に関する報告や、EVT とバイパス術の成績比較、WIFI 分類の有用性に関する報告が多くあり、血管外科医の視点からの PAD 診療の要点を拝聴できて、貴重な機会となりました。

以上、第 43 回日本血管外科学会学術総会、学会報告記でした。



<岡本先生と正面玄関にて>